

リハビリテーション概論

健康福祉学部

渡邊 修・池田 誠・栗原トヨ子

講義目標

リハビリテーション医療で遭遇する疾患や障害を通して、臨床医学に接近する。

健康福祉学部には、看護学科、理学療法学科、作業療法学科、放射線学科がある。いずれも臨床現場の第一線で活躍できる医療職を目指す学科である。リハビリテーション概論に関する講義は、理学療法学科では、本講義のほかに理学療法概論、作業療法学科では作業療法概論が1年次に開講されていることから、本講義では、逆に、患者の視点(主訴)を前面におき、それらに対する評価、考え方、治療方針について考えることにした。解剖学、生理学の専門的な知識が備わっていない1年次においても、自己や家族の身体、健康への関心は強く、症候に対する考え方の学びを通して、より臨床に接近することを試みた。

各講義のテーマ

1 記憶障害 2 腰痛 3 高齢者 4 認知症
5 肩こり 6 寝たきり 7 片麻痺
8 対麻痺 9 床ずれ 10 関節拘縮
11 筋力低下 12 姿勢異常 13 転倒

各講義では、リハビリテーション医療の現場で頻繁にみられる症状を取り上げた。ビデオや配布資料、ジェスチャー、学生への体験を通して、その対処法をグループで考えさせ、討論させ、発表させ、最後に説明するという形式をとった。

対象学生

□ 首都大学東京

健康福祉学部 (1年生)

理学療法学科 (必修) 41名

作業療法学科 (必修) 41名

看護学科 (必修) 79名

放射線学科 (選択) 6名

□ 都立大学

*都市教養学部 (1年生) 7名

*人文学部 14名

*法学部 1名

*経済学部 1名

全 190名

..... 講義の一例

「記憶障害」

溺水して5分間の心肺停止の後、蘇生術から助かった15歳女性について考える

- 1 テレビ放映されたこの患者のビデオの供覧
- 2 以下の問題を提起し、グループ討論
 - ・ なぜ、数分前の記憶がないのか
 - ・ 患者の心理は? なぜイライラするのか?
 - ・ 両親の思いは?
 - ・ どのようにして日常動作を自立させるか?
 - ・ これらは治るのか? リハビリテーションは?
 - ・ 脳のモデルを貸し出し、病変を考えさせる
- 3 教員が学生のグループ討論に加わる
- 4 学生の発表
- 5 教員の解説とまとめ

講義の工夫

- 1 医学は実学である。話題に取り上げる内容は、現実に差し迫った問題であることを意識させ、ビデオ、配布資料、実際のデータ、模型などを多用した。
- 2 学生参加型の授業になることを心がけた。
- 3 定式化した内容を提示するのではなく、赤裸々な事実を提示して、考えさせた(たとえば、両側の海馬を切除すると患者はどうなったのか)。